

各校で見直そう！

家庭学習のスタンダード増補版

# 家庭学習指導のすすめ

**Cycle & Feedback**  
短期での点検サイクル 意欲を引き出す評価

## 1 岡山県の現状

県教育委員会では、学校と家庭との連携の下、児童生徒の学習習慣づくりに取り組むために「家庭学習のスタンダード」を作成し、家庭学習の充実を呼び掛けてきました。

しかし、全国学力・学習状況調査の結果等から、「平日に授業外で1時間以上学習する生徒の割合（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む。）」を経年的に追うと、中学校入学後から次第に減少するという全国と正反対の傾向が続いています。

小学校第6学年時点では同割合が全国よりも高かったことから、中学校については家庭学習の指導改善が不十分であるといえます。

## 2 指導上の課題

### 課題1

#### ◆ 宿題の成果を問われないため、取り組む価値を実感しにくい

※ 授業内容の定着確認をする機会が少なく、また、確認のサイクルが長い（定期考査等）、毎時間の授業において「宿題に取り組んで良かった」という実感が得られにくく、学習意欲につながりにくい。

### 課題2

#### ◆ 提出することが目的になっている

※ 「提出」までは指導されるが、内容についての指導が不十分で、作業的な取組となりやすい。そのため、学習の質が低くなり、定着に結びつきにくい。（特に自主学习）

これらの課題を解決するため、もう一度「家庭学習のスタンダード」の視点1、視点2、視点3に立ち返り、各校における取組状況について確認しましょう。



うらっち ももっち  
岡山県マスコット

## 3 改善の視点と具体的な取組

### 中学校で求められる家庭学習の2つの役割

自ら学ぶ力の育成

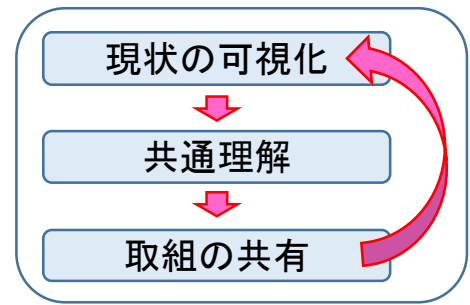
学習内容の確実な定着

「提出したかどうか」が重視される宿題や、ドリル形式の反復練習を課すだけでは、生涯にわたり自ら学び続ける「自律的学習者」を育てることはできません。家庭学習を通じて達成感を得られるような指導と、そのための仕組みづくりが必要です。

## <視点1> 学校全体で組織的に取り組もう

家庭学習の内容と量の改善に向けて、まずは各校において、家庭学習に関する「**現状の可視化**」を行い、全教職員で定着につながる家庭学習についての「**共通理解**」を図りましょう。

教科担任制である中学校においては、学級担任等との連携によって生徒一人ひとりの学力や学習状況を把握するとともに、改善に向けて全教職員で「**取組の共有**」を図りましょう。



## <視点2> 家庭学習は「宿題＋自主学習」と共通理解しよう

「**宿題**」は、学習内容を身に付けるための近道として、**教員が復習課題を提示するもの**です。宿題の点検・評価では、定着度の把握に重点を置き、定着が不十分な内容を授業内で解説したり、補充学習で個々の定着度に応じた指導を行うなど、定着度を意識した**フィードバック**を行うことで、達成感を得られるようにします。

「**自主学習**」は、**生徒自らが何にどう取り組むかを考えて苦手な問題に取り組む復習や、興味・関心をもったことについて調べたりする学習が中心**となります。自主学習の点検・評価では、学習内容等に対する称揚や、学習題材・方法がその生徒にとって的を射たものであるかの助言などを**フィードバック**することで、学習意欲を喚起・継続させるとともに、「自分に必要な学習が何か」を考えるきっかけとなり、自ら学ぶ力の育成につながります。

自主学習の指導については、次の点にも留意しましょう。

- ① 内容は最初から生徒任せにするのではなく、生徒のレベルに応じた取組を例示する。
- ② 点検・評価は教科担任が行うのではなく、学年団で行う。その際、担任任せにせず、副担任等と分担して行き、速やかに返却する。
- ③ 検印だけで終わらせるのではなく、前向きな評価やコメントを生徒に返す工夫をする。

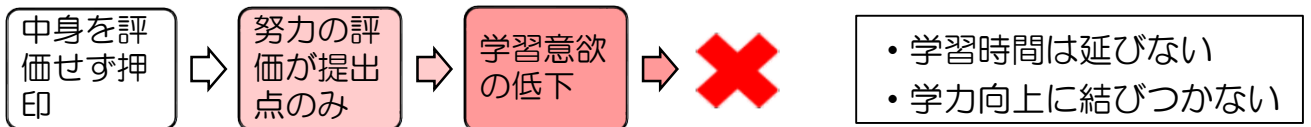


# Feedback

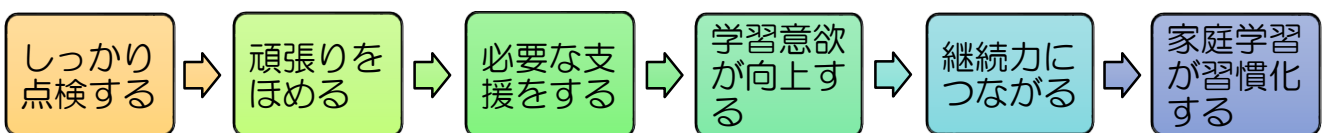
意欲を引き出す  
評価をしましょう



☆ 点検が押印のみで返却していると・・・

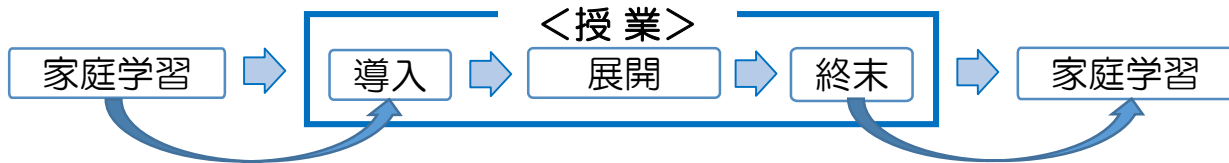


☆ 「点検・評価の工夫」をしっかりとすることによって・・・



# <視点3> 授業改善を図り、家庭学習につなげよう

## 授業とつながる家庭学習の課題を出しましょう



### <授業の導入での工夫例>

- ・前時の復習などに家庭学習や授業ノートを活用する。
- ・宿題の内容が定着していることを確認するための小テストを行う。

### <授業の終末での工夫例>

- ・授業と宿題のつながりを説明する。
- ・宿題の取り組み方のポイントを説明する。
- ・具体的に取り組むことを書かせる。

家庭学習では、「小テスト」に向けた復習を中心に、次時の予習等を組み合わせて取りまわせることで、授業とのつながりを意識させることが大切です。授業の終末で学習方法についてのポイントを挙げるなど、「自力でやってみよう」と思わせるよう丁寧に説明します。

生徒が家庭学習を「やってきて良かった」と感じることができる成功体験につなげることが意欲の継続につながるため「授業とのつながりを考えた宿題」「宿題で取り組ませたことを生かした授業」を計画する必要があります。

「小テスト」に向けた復習を、宿題として課すのか自主学習として課すのかは、生徒の習熟状況に応じて判断しましょう。



# Cycle



「小テスト」を活用し、短いサイクルで定着確認を行い、補充学習指導等で定着が不十分な生徒のつまずきを確実に解消することが、次の授業の充実につながります。

短期での点検サイクルを確立しましょう。



## 4 今後の取組につなげるために

学力向上に近道がないのと同様に、誘惑の多い家庭環境下で、生徒自身が学習や生活習慣を改善するには、保護者の意識改善も含め粘り強く指導に取り組むことが必要です。

先生が変われば生徒も変わることを信じ、まずは教員自身の意識を変え、これまでの取組を見直し、優先順位を定め、全教職員統一の取組を徹底することを始めましょう。

1. 家庭学習の「役割」「出し方」「点検」「評価」について全教職員が共通理解する。
2. 自校の家庭学習の「目標」と、達成に向けた校内の「ルール」を決める。

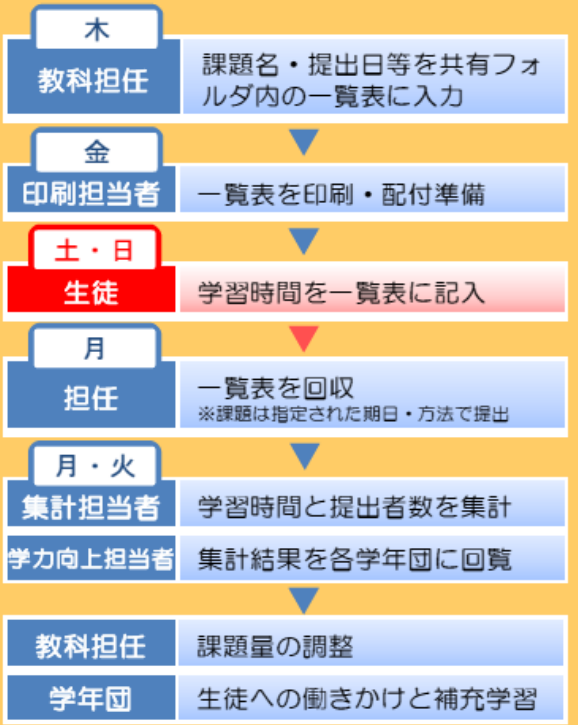
- ・「自ら学ぶ力の育成」と「学習内容の確実な定着」を念頭に、可視化できる具体的目標であること。
- ・「Cycle」と「Feedback」の視点でルールを決める。

3. 生徒・保護者に「目標」と点検・評価方法等の具体的「ルール」を説明し、実行する。

- ・家庭学習を「させられている」から「自分たちで取り組んでいる」と意識を変化させる仕掛けがあると効果が高い。



週末課題の1週間の流れ



宿題一覧表

国	7-7のつけ	次の授業	体	6-7の年生	週末課題	組	番	名前( )
国	漢字練習ノートの	次の授業	音	グループ	6/16~17の課題			
社	ノート(差別について)	次の授業	音					
数	プリント	9/14	美					
理	スタ1(〜9)	9/18	技					
英	スタ1(〜4)	火曜日	家					
	使いなす	月曜日						
	再テスト(書いてみる)	次の授業						
	スタ1(〜13)	不曜日						
	英語プリント	次の授業						

教科	内容(範囲・ページ数)	提出日・時間	かかった時間
国語	国語問題集p37, 38	6/18(月) 朝	分
数学	数学問題集p6, 6, 7 (5は残り, 6, 7は全部)	6/18(月) 朝	分
理科	プリント(2枚)	6/18(月) 授業中	分
社会	歴史問題集p6, 7	6/19(火) 授業中	分
英語	英語問題集p20~p29まで (答え合わせして)	6/18(月) 朝	分
その他	家庭科ノート (6/4に範囲配付済み)	6/18(月) 朝	分

週末の自主学習	自主学習の内容	かけた時間

※この紙は、週明けの日の朝集めます。それぞれの課題を何分かけて行ったか、書いて提出してください。

週末課題に学校全体で取り組むとともに、生徒の学習時間を把握することで、課題の適正化を図っています。課題一覧表に加えて、学習係が毎授業終了直後に、学級の「宿題ボード」に記入することで二重チェックをしています。生徒自身に課題の内容と量を的確に把握させることで、主体的・計画的に家庭学習に取り組ませるとともに、やり切らせる取組が徹底されています。

基準を満たさなければ、放課後学習へ

招待状

様

小テストの結果、5日(木)放課後に1年A組教室に招待します。必ず来て下さい。



時間の経過とともに

数学プレテスト 再テスト

20問以上正解で合格 (テスト前質問 o.k.)

今日の問題をテスト本番で正解しよう! (テスト後質問)



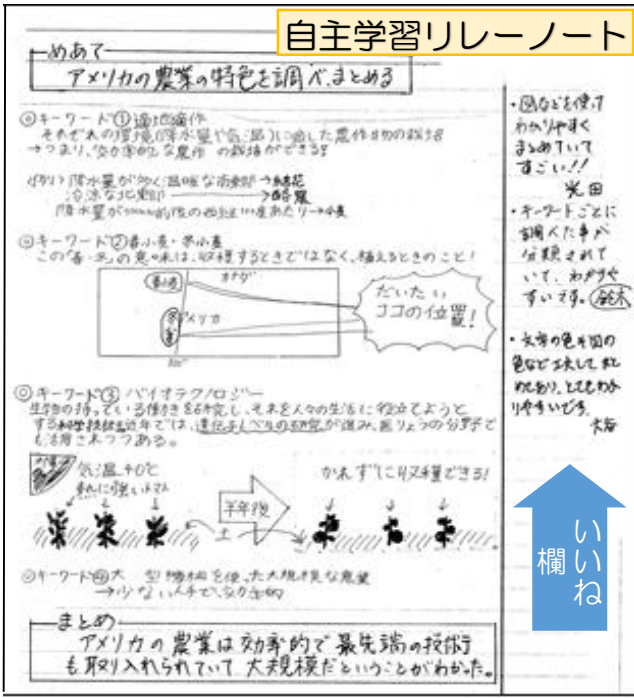
「小テストで合格点を満たさなかった」「宿題・課題を期限までに提出しなかった」など、客観的な参加基準を学校全体で定めており、部活動よりも勉強を優先させる指導を教職員で共通理解し、全ての部で徹底されているため、生徒も納得の上で参加します。

合格基準を満たせば部活動に参加できるため、合格基準に満たない生徒への指導が手厚くなり、つまり解消につながります。

全ての学校で「学力向上」の大切さは認識されており、先生方も日々、生徒のために授業改善等に取り組まれています。簡単に成果の出るものではありません。しかし、未来を生きる子どもたちのために、できること、しなければならぬことを地道に徹底して取り組むことが、結果的に近道になることを信じて共に頑張っていきましょう。



自主学習リレーノート



【内容】

班で自主学習に取り組むことで、学習習慣を身に付けさせる。また、班員の取組から自主学習への取り組み方を学ばせる。

【実施方法】

- 班に1冊ノートを準備。
• ページの右端に、アドバイスや内容で良かった点などを記入できる「いいね欄」を設ける。
• 班内で順番を決め、交代で持ち帰り、「いいね欄」を記入後、自主学習に取り組む。

【メリット】

班員同士で互いの取組を認め合うことが「やる気」の喚起につながり、「学び方」を学ぶ機会にもなっている。



正答率が県平均と比較して-5%以上と50%以下の分野の問題にはシール



【補充プリントでの支援】

問題データベースから同一分野において難易度の異なる2種のプリントを印刷し、1つの引き出しに入れる。生徒は習熟度に応じ自由に持ち帰って取り組み、指導を受けることができる。



【内容】

テーマに沿ったPTAとの話し合いの中から、自分たちの課題と改善策を見つけ出させる。生徒会執行部が意見をとりまとめ「執行部ニュース」等を作成し、啓発する。

【実施方法】

- テーマを設定し、話し合いの機会を設け

【テーマ】

- 「メディア利用時間と家庭学習」について（8月）
• 「家庭学習」と「交通ルール」について（1月）

【メリット】

互いに意見を出し合う中で、生徒は様々な考えに触れ、自分たちの生活を見つめ直し、改善方法を見つけ、全校で共有して改善に取り組むことができる。

PTAと語る会の様子 1月実施（右）



【1UP 家庭学習でじぶんを救え】

自分の未来を築くために、まずは家庭学習平均時間の1時間アップを目指し、今までの自分を越えることを目的としている。時間だけでなく、内容の充実のために好事例の紹介なども行っている。

- 取組内容… クラス間で学習時間を競う
• 毎週水曜日(ノ一活動デー)に、学校以外の学習時間を増やす取組
• 調査用紙を使用して全員の毎週水曜日の家庭学習時間を調査
• 集計結果を毎回公表し、各クラスで呼びかけの実施
• 学期ごとに、採択調査終了後、調査結果を基に学力向上委員会で検討し、表彰



課題ボードを  
もとに記入

課題一覧					
提出日	宿題内容	提出日	宿題内容	提出日	宿題内容
10/5	国漢字④まで	10/5	理レポート	10/5	理レポート56,57
	社7-7P283③まで		国プリント⑤		
	英7-7R247まで		理プリント②		

帰りの会で計画

時	教科	内容・準備等	今日やる宿題・自主学習(計)	学習時間(実施)
1	英B	1つも	巻頭7-7R57	10分
2	技	彫刻刀、美術セット	英7-7P283~36	40分
3	美	長トシ、長スポン	国白アリ図表	5分
4	数	1つも	理レポート	25分
5	国	1つも		
6	理	1つも		
放課後			自主学習	60分
その他の提出物			予定合計時間	140分
生活記録(反省)			今日は技術がけがききました。木の表面がガタガタしているからとも糸を引すぎてきたなど、使い方は覚えてきた。	

学習時間の記入等

【内容】  
生活ノートを一冊。生徒が放課後の過ごし方を計画し、自主的に学習できるようになることを目指し、活用方法を指導。

【実施方法】

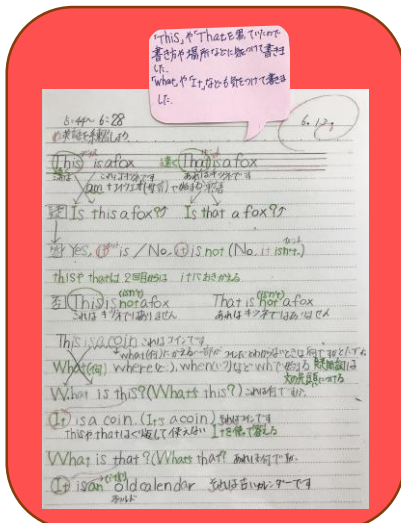
- 生徒は帰りの会で課題ボードから宿題を課題一覧に転記する。
- 今日やる宿題と自主学習をそれぞれ計画(内容・時間)し、放課後の時間の使い方を意識させる。

【メリット】

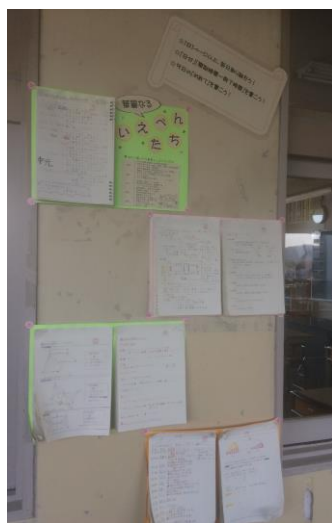
- 各ページの上部に課題一覧を記入する欄があり、生徒は自身の課題の提出状況について把握できる。
- 月曜日から金曜日までは家庭学習の計画と実際の学習時間を記入する欄を設けることにより、計画的に学習できたかどうか確認できる。
- メディア時間や就寝時間も記入することで、学習習慣・生活リズムについても確認できる。

【保護者との連携】

- 週末に生活ノートで生徒の1週間を確認してもらい、一言コメントをもらう。(ハンコでもOK)



「いえべん」ノート



手本となるノートの掲示

【内容】  
自主学習「いえべん」を実施。小学校で培った学習習慣を中学校に円滑につなぐ。

【実施方法】

- 生徒はノートを毎日提出し、当日中に点検したものを返却。
- ノート点検と放課後の指導対象・称揚対象の選定は副担任。
- 未提出者は放課後実施。(部活動より優先)
- 教室に手本となるノートを掲示したり、「いえべん」の全校コンテストを行ったりして、フィードバックを実施。

【メリット】  
自主学習の内容のレベルも提出率も向上。生徒が学習内容を自分で計画し、着実に実行する経験の積み重ねを行うことで、将来を切り拓くための確かな土台へつながる。生徒には自主学習ノートが終わる毎にチャレンジカードが配付され、5枚貯まると表彰される。カードは小学校から引き継がれるため、生徒のやる気も継続する。



チャレンジカード(左)と JSG認定証(右)  
※JSG=自主学習の略  
※写真はサンプル